

=====

CONTENTS

- 巻頭言
- 第67回全国学術大会の自由論題・テーマ分科会募集のお知らせ
- 事務報告
  - 2017-18年度 第1回常任理事会議事録
- 太田賞受賞状況
- 地域部会報告
  - 関東部会修士論文報告会
- 学会スケジュール（予告とお知らせ）
  - 関西部会大会のお知らせ
  - 西日本部会研究集会のお知らせ
  - 東海部会のお知らせ
  - 関東部会定例研究会のお知らせ
- 日本現代中国学会事務局あて寄贈図書・雑誌

=====

■ 巻頭言

世界孔子学院大会（昆明）へ参加して——「国家プロジェクト」を実感？！

宇野木 洋（立命館大学）

◇学内役職の関係で、昨年12月9～11日、雲南省・昆明市で開催された世界孔子学院大会に出席させられた。9日午前の授業を終えてからの出発だったことと、関西国際空港からは昆明直行便がなく、かつ、飛行機がかなり遅れたこともあって、昆明空港に到着したのが10日の現地時間午前2時過ぎだったことに象徴される、2泊3日のハード・スケジュール出張で、疲れ切った！というのが率直な感想だった。（中国有数の観光地・昆明は初めての訪問だったにもかかわらず、自由時間は10日夜にたった30分ほどしか取れず、ホテル周辺を歩き回ることしかできなかったのが、本当に心残りだった。）

◇愚痴はともかくとして、この出張における最大の印象は、中国にとって孔子学院とは、やはり世界に向けて中国語・中国文化を発信していく、まさに「国家プロジェクト」として位置づけられていたのだということ、改めて再確認させられた点にあった。それは、10日午前に行われた大会開幕式の「主持人」が、国務院教育部長兼孔子学院総部理事会副主席の陳宝生によって担われ、冒頭挨拶が雲南省党委員会書記兼雲南省長の陳豪で、基調報告が、中国共産党政治局員で国務院副総理（文化・教育分野担当）を務める劉延東（女性）だったことなどからも明らかだろう。ちなみに、現在、孔子学院は世界各

地に 500 ほど設置されており、世界大会出席者は、国内参加者も含めてだが、3000 人規模とのことだった。

◇国家的位置づけを実感した小さな経験を、1 つだけ紹介しておく。10 日夜、外国人参加者は、雲南の民族芸能をモダンに再構成した芸術劇「雲南映象」（日本上演もされて好評を博したとのことだった）を鑑賞することになっていたのだが、当日午後の「院長論壇」が長引き夜の歓迎宴も遅れたことから、開演までの時間が差し迫ったらしい。宴席が早仕舞いさせられ、急いでバスに乗るように指示された。外国人中心に乗車したバス 30 台ほどが、昆明郊外の国際会議場から市内中心の劇場へ向けて 30 分ほど疾走したのだが、何とその間、信号は全て青だったのだ。交差点には公安関係車両が停まっており、警察官が信号を操作していたことにふと気づいて、驚いたというより、呆然としてしまった。一般車両が長蛇の列を連ねて渋滞している横を走り抜けながら、私としては心の中で、「昆明市民の皆さん、迷惑をおかけし、本当にすみません！」と呟くよりなかった。

◇中国の中央集権的力量を改めて思い知らされた恰好だが、それだけに、孔子学院の運営にあたっては、日本の、更には設置している本学の自主性をしっかりと担保していかなければならないと、改めて思い知らされたのも事実である。孔子学院は、中国にとっては「国家プロジェクト」なのだろうが、日本ないし設置している本学にとっては、主体性を備えた「共同プロジェクト」に他ならないのである。本学の孔子学院の場合、中国側（国家漢語弁公室）が拠出する補助金と同額以上を、毎年、本学も拠出するという財政自主権はもとより、理事長・学院長他の役職者も、必ず過半数は本学側から選出するという運営自主権を実現し、当然ながら、学問・教育の自由を認めさせて活動しているのだが、それでも時に、中国と付き合いしていくことのシンドさを実感させられなくもないのだ。

◇孔子学院をどう見るか、様々な議論があり得よう。だが、中国語教育の充実や留学枠の拡大など、本学の学生たちに直接的に還元できるメリットが多いのも確かである。また、根拠なき「中国脅威論」も横行する中で、市民に向けて草の根からの中国理解を進めていく上でも、一定の意義を持つことも事実だろう。市民・学生に役立つ教育・文化機関として、本学の孔子学院は如何なる活動を展開すべきか、今後とも考え続けていくしかないようだ。

【立命館孔子学院学院長コラム「考えてみチャイナ・中国のこと！？（その 10）」（立命館孔子学院 HP、2017 年 1 月 24 日）と一部重複する内容となっている点をお断わりしておく。】

## ■第67回全国学術大会の自由論題・テーマ分科会募集のお知らせ

2017 年日本現代中国学会全国学術大会を、10 月 28 日（土）・29 日（日）の両日、愛知大学名古屋キャンパス（<http://www.aichi-u.ac.jp/profile/campus-nagoya.html>）において開催することになりました。次ページ以下の応募要項の通り、会員の皆様から自由論題の報告希望者およびテーマ分科会の開催希望者を募集いたします。奮ってご応募くださいますようお願い申し上げます。

なお、今大会の共通論題は「ロシア革命百年と中国」です。

百年前にロシアで起こった政治変動が、その後の中国の歴史に及ぼした巨大な影響については贅言を要さないでしょう。また、ロシア革命が生み出した事物の一部が、変容しながらもなお中国において機能を発揮し続けていることも否定できません。しかし、ソ連邦の崩壊、中国の改革開放政策の展開という事態の前に、いまやロシア革命と今日の中国との結びつきなどを想起する機会はほとんどなくなってしまいました。他方では、「歴史の終わり」が喧伝された冷戦終結直後の一時期が過ぎ去り、各地でナ

シヨナリズムの動きが台頭し、地政学的な国家間の角逐が顕著になるなど、世界はロシア革命以前を思わせる光景を呈しているようにも見えます。

このような認識を踏まえて、あらためてこの1世紀に及ぶ「ロシア革命」と中国との関わりについて多面的に考察したいというのが、今回の共通論題のねらいです。中国とソ連（ロシア）の共産党間・国家間の関係、経済発展の経験をめぐり比較、政治・法制度の受容と変容、文化的影響関係など、なお問い続けなければならない諸問題が数多く残されています。節目の年にあたり、会員の皆様の積極的なご参加を期待いたします。

### 応 募 要 項

自由論題の報告希望者およびテーマ分科会の開催希望者を以下のように募集します。事務的混乱を避けるために、やや煩瑣なご依頼事項を列挙しておりますことをご許してください。

①自由論題での報告（一人の報告時間は25分程度）をご希望の会員は、氏名・所属・報告テーマおよび要旨（800字程度）を下記⑩の連絡先までお送りください。

なお、大学院生は指導教員、またはそれに相当する会員の推薦状（推薦者の氏名、所属、連絡先、推薦理由を記載。書式は自由）が必要です。報告者は会員でなければなりません（非会員の場合は下記⑤を参照）。

②テーマ分科会の開催（報告者2～3名、約2時間）をご希望の会員は、企画者の氏名と所属、企画テーマ、討論者の氏名と所属、司会者の氏名と所属を確定したうえで、下記⑩の申込先までお送りください。分科会は原則として会員で構成するものとし、変更はできません。確認のため、報告者、討論者、司会者が会員であるかどうかを明記してください。

③自由論題およびテーマ分科会の応募に関するご連絡は、すべて電子メールでお願いします。その場合、ウィルス感染防止のため、添付ファイルは使用せず、メール本文にテキストで記載してください。なお、推薦状も原則としてメールで作成し、応募者はそれを転送するかたち（メール本文にペースト）としてください。どうかご理解とご協力をお願いいたします。

④締め切りは6月30日（金）とします。

⑤学会非会員の方で、自由論題での報告をご希望の方は、入会が応募の条件となります。入会申請をしていただいたうえで（日本現代中国学会のウェブサイト <http://www.genchugakkai.com/nyukai.html> を参照）、ご応募ください。入会手続きが報告発表までに完了しない場合でも、応募済みであれば発表は可能です。

⑥大会参加の旅費および宿泊費等は自己負担となります。

⑦報告希望者、テーマ分科会開催希望が多数に上る場合は、内容や会員歴などをふまえて調整させていただくことがありますので、あらかじめご承知おきください。

⑧応募をされた方には、メールにて実行委員会より応募受理の連絡をいたします。メールを送信した後、1週間以内に連絡がないときは、再度メールにてお問い合わせください。

⑨自由論題報告者は、大会10日前の10月18日（水）までに報告原稿（フルペーパー）またはレジユメのPDFファイルを実行委員会まで提出してください。提出は任意です。提出された資料にはパスワードを付し、期間限定で学会ホームページに掲載します。なお、パワーポイント等の機器使用を希望される場合は申し込み時に必ず明記してください。

⑩応募申込先は、以下の実行委員会メールアドレスです。[2017genchu@gmail.com](mailto:2017genchu@gmail.com)

⑪応募のメール送信をする際、件名を以下のようにしてください。

\*自由論題への応募の場合は「自由論題」

\*テーマ分科会応募の場合は「テーマ分科会」

この機会に当学会未加入の優秀な大学院生の皆様にも、ぜひ入会と報告発表をお勧めくださいますようお願い申し上げます。

日本現代中国学会第 67 回全国学術大会  
実行委員会事務局（砂山幸雄研究室）

## ■事務報告

### □2017-18 年度 第 1 回常任理事会議事録

日時：2017 年 3 月 2 日（木）14:00～17:30

場所：愛知大学名古屋校舎 K511 教室

出席者：田中仁理事長、趙宏偉副理事長、巖善平事務局長、辻美代会計担当理事、中村元哉関東部会代表、北川秀樹関西部会代表、松岡純子西日本部会代表、砂山幸雄東海部会代表、宇野木洋編集委員長、日野みどり広報委員長、瀬戸宏規約・財務健全化委員、川島真規約・財務健全化委員、三好章開催校代表（2017 年）

欠席者：田島英一開催校代表（2016 年）

#### ○報告事項

##### 1. 会務報告

巖事務局長より、冒頭、会員数について報告がなされた。2017 年 2 月 20 日現在、個人会員 711 名、団体会員 5 団体。この間の新規入会は 11 名、退会 40 名であった。

##### 2. 2016 年大会報告

開催校代表が欠席となったため、報告がなかった。今後、必要に応じて、2017 年大会開催校は前年大会開催校の関係者との間で情報交換を行うこととした。

##### 3. 会計報告

辻会計担当理事より、会費納入状況について報告がなされた。2 月 20 日現在、711 名の会員のうち、未納なしが 363 名、未納 1 年が 243 名、2 年が 52 名、3 年が 25 名、4 年が 28 名である。

##### 4. 編集委員会報告

宇野木編集委員長より、『現代中国』91 号編集作業到達点について報告がなされた。会員による投稿が 9 本あり、各投稿の査読者も確定済みである。奥村哲副編集委員長が担当する書評について各分野から対象本 1 冊が選定され評者も選任済みである。特集「2016 年度全国大会共通論題＝リスクで測る中国の諸相」について報告者、コメンテーターへの原稿依頼が完了している。以上を踏まえ以下のコメント

が付け加えられた。

①全体的な印象と見通し：投稿論文が何本査読に耐え得るか、一定の不安も感じているが、書評・特集をも視野に入れれば、例年の水準（量・質）を備えた『現代中国』の発行に向けて、作業は何とか順調に進展しているとは言えよう。

②投稿論文をめぐって：全体で9本に留まる。他学会・研究会の雑誌と比しても、減少傾向にある。

③編集作業において顕在化してきた問題点として、学会事務局の支援体制が十分とはいえないこと、「募集要項」「投稿規定」「原稿執筆要領」の間の微妙なズレも存在していることが指摘された。

## 5. 広報委員会報告

日野広報委員長より、広報委員会の活動状況について口頭報告がなされた。ニューズレター担当、ホームページ担当が確定し、ニューズレターの発行、学会内外からの告知情報の掲示など様々な通常業務が行われていることが報告された。

## 6. 地域部会報告

①中村関東部会代表より、平成29年1月9日（月）に定例研究会が開催され、また来る5月13日（土）に修士論文報告会、7月16日（土）に『中華民国專題史』合評会が予定されていることが報告された。

②北川関西部会代表より、2017-2018年度関西部会第1回事務局会議がさる12月17日（土）に開かれ、2017年度関西部会大会を来る6月3日（土）に同志社大学今出川キャンパスにて開催し、共通論題、自由論題募集などについて意見を交わしたこと、新規入会者2名が承認されたことが報告された。

③松岡西日本部会代表より、新入会申請1名が承認されたこと、西日本部会研究集会を2017年6月10日（土）に熊本学園大学にて開催し、報告者の募集に向けて準備を進めていることが報告された。

④砂山東海部会代表より、さる12月20日（火）に部会理事会が開かれ幹事2人を選任したこと、2017年3月4日（土）に第8回研究集会、6月に第9回研究会を開催する予定が報告された。

## 7. その他

厳事務局長より、本学会が加盟する地域研究学会連絡協議会（JCASA）および東洋学・アジア研究連絡協議会の総会出席（趙副理事長）、JCASA『ニューズレター』への寄稿、日本学術会議への学術会員候補推薦など関係機関との連絡について執行部で情報共有し適宜対処していることが報告された。

## ○審議事項

### 1. 新入会の承認

関東部会より孫沛艾、関西部会より陳艶の新規入会申請があり、承認された。

### 2. 2017年全国大会について

三好・砂山開催校代表より、実行委員会の構成、自由論題（分科会）の募集時期、企画（テーマ）分科会、開催場所の確保、および今後のスケジュールについて説明があり、意見交換の上、了承された。共通論題については、A案「ロシア革命百年と中国」に決定し報告者などを選任することとなった。同大会に合わせて全国理事会を第1日目の午前に開催を予定している旨の報告もあった。

### 3. 大会報告の HP 掲載内容について

日野広報委員長より、全国学術大会の自由論題報告予定者に対して事前に要旨の他にフルペーパー（論文全文）を提出させ、学会 HP にて公開することの是非について書面提案があった。意見交換の結果、①報告者にフルペーパーまたは報告レジュメ（以下、資料）の任意提出を求めること、②提出された資料をパスワード付き PDF で学会ホームページに期間限定の掲載を行うこと、③自由論題の募集に合わせて①と②を告知すること、④広報委員会が開催校と連携して関連作業を担うこと、が決定された。

### 4. 学会事務局および会誌製作業務の委託について

田中理事長より、本件の経過について資料に基づいた詳しい説明が行われ、それを踏まえた執行部提案が提出された。審議の結果、一部修正の上、下記の通り承認された。①学会事務局と学会誌制作にかかわるそれぞれの業務委託項目を下記のようにすること、②理事会メーリングリストを通じて周知して見積書の提出を求めること、③提出された見積書にもとづき委託先を執行部が具体化すること。

#### 【学会事務局にかかわる委託業務項目】

会員・会費管理手数料  
発送・発信手数料  
ニューズレター作成・発送手数料決算書作成  
監査対応  
学会誌の査読支援  
名簿作成費  
※会員数 約 750  
※必要経費（事務経費、郵送料等通信連絡費）は含まない。

#### 【学会誌製作にかかわる業務委託項目】

入稿原稿の点検（原稿執筆要領との照合）と編集  
割付、版下・製版・校正（三校まで）、印刷・製本  
会誌の発送代行  
※800 部、『現代中国』第 90 号の同等の体裁（頁数・紙質）とする。  
※校正に関わる通信連絡費・会誌送料実費は含まない。

### 5. その他

学会ホームページの部分更新に伴い、作業に当たった非会員の人に 2000 円の謝金を支払うことが承認された。

瀬戸理事から、学会 HP の「学会概要」が高見澤元理事長署名のままになっていることについて検討を要するとの指摘があった。

※常任理事会終了後、大会会場の見学が行われ、優れた環境であることが確認できた。

### ■第13回太田勝洪記念中国学術研究賞の発表・授与について

第13回太田勝洪記念中国学術研究賞は、『中国研究月報』編集委員会より推薦のあった下記論文が選ばれた。2017年1月28日（土）に開催された中国研究所新年会において、杉山文彦中国研究所理事長よ

り受賞論文の発表および賞状の授与が行われた。なお、日本現代中国学会の『現代中国』は今年度の推薦を見送った。

受賞作品：

金野純氏「文化大革命における地方軍区と紅衛兵—青海省の政治過程を中心に」

(『中国研究月報』2016年12月号)

## ■地域部会報告

### □関東部会修士論文報告会

関東部会は2017年5月13日(土)、東京大学駒場キャンパス2号館308号室にて、2017年度春季修士論文報告会を行った。報告は4つ、参加者は27名であった。各報告に対してはさまざまな分野の専門家から有意義なコメントが数多く出され、議論がさらに深められた。報告者、報告題目、司会者、内容は以下の通りである。

1) 金昇來(東京大学人文社会系研究科 D1)

「1910年代上海共同租界の行政体系」 司会：中村元哉(津田塾大学)

2) 瀬尾光平(東京大学人文社会系研究科 D1)

「第二次世界大戦後香港における爆竹規制の展開と華人社会」 司会：谷垣真理子(東京大学)

3) 倪捷(東京大学総合文化研究科 D1)

「1970年代初期の保釣運動に関する研究—国共競争の視点から」 司会：澤田ゆかり(東京外国語大学)

4) 黄喜佳(東京大学法学政治学研究科 D1)

「三線建設と毛沢東時代の中央・地方関係」 司会：趙宏偉(法政大学)

1) は「行政体系」という概念を用いて会審公廨を考察することで、上海の租界行政を総合的に捉えようとした。報告者は、清末から辛亥革命、第一次世界大戦期にいたる会審公廨をめぐる租界行政のあり方を、領事団と清朝地方官による主導および工部局理事会による外国人エリート社会の利益の代弁を特徴とする1869年体制から、領事団と工部局理事会との協力および中国の影響力の減退を特徴とする1911年体制への変化として描き出した。

2) は六七暴動前後の香港華人社会を、政庁の爆竹規制と華人側の対応から考察した。報告者は、政庁が広報主体のキャンペーンにより規制を行うことで華人との衝突を回避し、華人側でも啓蒙意識が高まっていたため、両者に大きな対立は生じなかったこと、六七暴動時の政庁の爆竹禁令が政庁への華人の信頼感などから成功したことを明らかにするとともに、この禁令が華人たちに自身の文化的背景を考えさせるきっかけとなった可能性を指摘した。

3) は1970年代初期のアメリカと香港の保釣運動を、運動に参加した中国系知識人の「中国」認識や、それに影響を与えた中国国民党と中国共産党の競争という観点から考察した。報告者は、運動参加者の「中国」認識を中心に運動の過程を整理し、そこでの国共両党の影響として、アメリカでは国共の競争が顕在化し、特に「統一戦線」を目指す共産党の強い関与が見られたのに対し、香港では両党の公然とした介入が見られなかったことを指摘した。

4) は三線建設を題材に取り上げ、毛沢東時代の地方政府が、中央政府の打ち出した政策方針を自身の望む方向へ変更し実施したということを検証した。報告者は、イーストンの政治システム論に基づきつつ、地方政府が中央政府の政策方針を実施段階で変更させうる要因や、同一条件下の地方政府間にお

ける中央政府の政策への影響力の相違およびその相違の理由を明らかにしようとした。

## ■学会スケジュール（予告とお知らせ）

### □関西部会大会のお知らせ

【日時】2017年6月3日（土）9:30～17:15（受付は午前9時より開始）

【会場】同志社大学烏丸キャンパス志高館

京都市上京区烏丸通上立売上る相国寺門前町647-20

【アクセスマップ】<https://www.doshisha.ac.jp/information/campus/access/karasuma.html>

\*地下鉄烏丸線「今出川」駅から徒歩5分／京阪電車「出町柳」駅から徒歩25分／京都バス「烏丸中学前」から徒歩1分

【キャンパスマップ】

<https://www.doshisha.ac.jp/information/campus/imadegawa/karasuma.html#campusmap>

【参加費】無料（懇親会費用は別途）

【自由論題報告】

9:30～12:00（報告30分、コメント・討論20分）

《政治（国際政治，日中関係）》\*会場：SK102

◇司会：楊韜（佛教大学）

●第一報告（9:30～10:20）：ホジェチヨル（立命館大学JSPS外国人特別研究員）

「現代中国外交のネットワーク権力に関する分析：集合権力と位置権力を中心に」

○コメンテーター：滝田豪（京都産業大学）

●第二報告（10:20～11:10）：周妍（大阪大学国際公共政策研究科招聘研究員）

「現代中国知識人の日本論——1989年から1992年まで——」

○コメンテーター：滝田豪（京都産業大学）

●第三報告（11:10～12:00）：鄒燦（大阪大学）

「「盧溝橋事件記念日」をめぐる日本と中国——政治的語りを見る日中戦争像の比較研究」

○コメンテーター：内田尚孝（同志社大学）

《経済分科会》\*会場：SK103

◇司会：何彦旻（京都大学）

●第一報告（9:30～10:20）：陳艷（同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科・院生）

「中国雲南省中部地域における少数民族農村住民の生活と貧困——農家調査の個票データに基づく実証分析」

○コメンテーター：寶劔久俊（関西学院大学）

●第二報告（10:20～11:10）：辻美代（流通科学大学）

「ヤンガー集団と如意集団の成長比較（仮題）」

○コメンテーター：楊秋麗（立命館大学）

●第三報告（11:10～12:00）：北波道子（関西大学）

「1990年代における台湾経済の国際化」

○コメンテーター：登り山和希（桃山学院大学）



《文学分科会》\*会場：SK104

◇司会：西村正男（関西学院大学）

●第一報告（9:30～10:20）：高尾有紀（奈良女子大学大学院・院生）

「沈從文『阿麗思中国遊記』について」

○コメンテーター：津守陽（神戸市外国語大学）

●第二報告（10:20～11:10）：瀬戸宏（摂南大学）

「王翀（ワン・チョン）と薪伝実験劇団——21世紀の中国実験演劇」

○コメンテーター：森平崇文（神戸学院大学）

●第三報告（11:10～12:00）：白須留美（仏教大学非常勤講師）

「周瘦鷗と沈雁冰における翻訳態度の相違——『心声』の比較を通じて——」

○コメンテーター：谷行博

【昼食休憩】（12:00～13:15）\*関西理事会（12:00～12:45、SK105）

【共通論題シンポジウム】\*会場：SK118

テーマ

「香港主権返還後の20年——独自性のゆくえ——」（共催：日本華南学会）

13:15～13:20 関西部会長挨拶：北川秀樹（龍谷大学）

司会・趣旨説明：日野みどり（愛知大学）

●報告：

13:20-13:50 「政治」谷垣真理子（東京大学）

13:50-14:20 「社会1（人口移動）」澤田ゆかり（東京外国語大学）

14:20-14:50 「社会2（華南社会）」塩出浩和（城西国際大学）

14:50-15:20 「映画」韓燕麗（関西学院大学）

休憩（15:20-15:40）

15:40-16:40 フロアからの意見・質疑応答

16:40-17:15フロアとの討論およびまとめ

○ディスカッサント：日野みどり

SK119教室は終日休憩室として利用できます

◇懇親会

（17:30～19:30）

【会場】芙蓉園

〒602-0033 京都府京都市上京区今出川通烏丸西入今出川町324

TEL：075-431-3665

URL: <http://www.fuyouen.net>

一般5,000円・学生（院生）3,000円

\*参加希望者は必ず申込書にて事前にご連絡ください。

**□西日本部会研究集会のお知らせ**

日時：2017年6月10日（土）午後1時 開会

会場：熊本学園大学（大江キャンパス）14号館1階（1412教室）

（〒862-8680 熊本市中央区大江2-5-1）

13:00 開会のことば

第1～第3報告【政治・経済】司会:大澤武司（熊本学園大学）

13:00～13:35 「2012年重慶事件に関する日本の新聞の報道状況に関する分析」

渡辺直土（熊本大学）

13:35～14:10 「中国農村金融における農村信用社の改革」

劉鵬（広東海洋大学経済学院）

14:10～14:45 「台湾における土壟間の活動と日本の植民地政策」

堤和幸（長崎県立大学・福岡大学 非常勤講師）

14:45～14:55 休憩

第4・第5報告【言語・文化】司会:間ふさ子（福岡大学）

14:55～15:30 「『牯嶺街少年殺人事件』の言語世界－眷村黒話を中心に－」

有働彰子（西南学院大学 非常勤講師）

15:30～16:05 「許地山および初期作品における女性たち－アジアにおける基督教の宣教と教育」

松岡純子（長崎県立大学佐世保校）

16:05～16:15 休憩

第6～第8報告【歴史・思想・社会】司会:北口秀穂（尚絅大学）

16:15～16:50 「『支那通』に対する同時代認識」

関智英（東洋文庫・日本学術振興会特別研究員）

16:50～17:25 「辻聴花の北京における言論活動－燕塵社を中心に」

森平崇文（神戸学院大学グローバル・コミュニケーション学部）

17:25～18:00 「中国における養成型アイドル団体とファンコミュニティに関する一考察」

登坂学（九州保健福祉大学）

18:00 閉会のことば

18:10～ 総会

18:30～懇親会

## □東海部会第9回研究集会報告者募集のお知らせ

東海部会では、「第9回研究集会」の報告者を①「文学・思想」、②「歴史・社会」、③「政治・経済」の3分野で募集します。

報告希望者は【5月8日（月）】までに、電子メールで下記の「申し込み先アドレス」へ以下の内容を添えてお送りください。

電子メール件名は「東海部会研究集会報告申し込み」とし、氏名、所属、報告分野、題名、連絡先メールアドレスと電話番号を記載してください。（なお、メール本文に記載し、添付ファイルは避けてください。）

応募者が4人以上の場合は、事務局で調整させていただく場合があることをご承知おきください。応募者には【5月12日（金）】までに報告の可否をメールで連絡いたします。

以上、宜しくお願いいたします。

## 記

- ・日時：2017年6月24日（土）13：00－17：30  
（報告者の人数によって、時間の変更があります）
- ・報告時間：40分、質疑20分の予定です。
- ・会場：愛知大学車道校舎

※研究集会終了後、懇親会（会場未定）を予定しています。

- ・申し込み先：東海部会総務（工藤貴正）  
E-mail: kudohgz[アットマーク]for.aichi-pu.ac.jp

## □関東部会定例研究会のお知らせ

合評会：『中華民国專題史』全18巻（南京大学出版社、2015年）

○報告日時：7月16日（日）13:00～17:30

○場所：東京大学駒場キャンパス2号館308教室

<プログラム>

総合司会 川島真（東京大学）

13:00-13:10 趣旨説明：川島真（東京大学）

13:10-14:50 第一部

13:10-13:30 小野泰教（学習院大学）

李金強・趙立彬・谷小水『從帝制到共和——中華民国的創立』（1巻）潘光哲ほか『文化、觀念与社会思潮』（2巻）

\* 質疑応答5分

13:30-13:50 小池求（流通経済大学）

馬振犇・唐啓華・蔣耘『北京政府时期的政治与外交』（3巻）劉維開『国民政府執政与対美關係』（5巻）

\* 質疑応答5分

13:50-14:10 久保茉莉子（東京大学・研）

朱漢国ほか『国民革命与北伐戦争』（4巻）江沛ほか『城市化進程研究』（9巻）

\* 質疑応答5分

14:10-14:30 吉田建一郎（大阪経済大学）

卓遵宏ほか『南京国民政府十年經濟建設』（6巻）任貴祥・李盈慧『華僑与国家建設』（14巻）

\* 質疑応答5分

14:30-14:50

第一部に関する討論

14:50-15:00 休憩

15:00-17:00 第二部

15:00-15:20 菅野智博（一橋大学・院）

葉美蘭ほか『中共農村道路探索』（7巻）趙興勝ほか『地方政治与鄉村変遷』（8巻）

\* 質疑応答5分

15:20-15:40 大澤肇 (中部大学)

朱慶葆ほか『教育的変革と発展』(10巻) 王川ほか『边疆と少数民族』(13巻)

\* 質疑応答5分

15:40-16:00 藤井元博 (防衛研究所)

張瑞徳ほか『抗日戦争と戦時体制』(11巻) 張同楽『抗戦時期的沦陷区と偽政権』(12巻)

\* 質疑応答5分

16:00-16:20 家永真幸 (東京医科歯科大学)

陳立文ほか『台湾光復研究』(15巻) 吳志良・姜勝華・何偉杰『革命、戦争と澳門』(18巻)

\* 質疑応答5分

16:20-16:40 吉見崇 (埼玉大学・兼)

林桶法ほか『国共内戦』(16巻) 張俊義・劉智鵬『香港と内地関係研究』(17巻)

\* 質疑応答5分

16:40-17:00

第二部に関する討論

17:00-17:30 総合討論: 中村元哉 (津田塾大学)

## ■ 日本現代中国学会事務局あて寄贈図書・雑誌

王静『現代中国茶文化考』思文閣出版

吉川純恵『中国の大国外交への道のり: 国際機関外交を中心に』

(現代中国地域研究叢書) 勁草書房

加茂具樹編著『中国対外行動の源泉』

(慶應義塾大学東アジア研究所 現代中国研究シリーズ) 慶應義塾大学出版会

小嶋華津子・島田美和編著『中国の公共性と国家権力: その歴史と現在』

(慶應義塾大学東アジア研究所 現代中国研究シリーズ) 慶應義塾大学出版会

上水流久彦・太田心平・尾崎孝宏・川口幸大編『東アジアで学ぶ文化人類学』昭和堂

=====

日本現代中国学会事務局

〒166-8532

東京都杉並区和田3-30-22 大学生協学会支援センター内日本現代中国学会事務局

TEL: 03-5307-1175

FAX: 03-5307-1196 genchu@univcoop.or.jp

郵便振替: 東京00190-6-155984

広報委員長: 日野みどり (愛知大学)

ニューズレター編集: 渡辺直土 (熊本大学)

日本現代中国学会HP: <http://www.genchugakkai.com>

=====